

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成29年度第1回史跡高松城跡整備会議建造物整備部会
開 催 日 時	平成30年2月6日(火) 10時30分～12時30分
開 催 場 所	玉藻公園 披雲閣 桐の間
議 題	(1) 披雲閣(蘇鉄の間)耐震補強案 (2) 桜御門復元整備工事の進捗状況
公 開 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	谷部会長・増井委員・三浦委員・山田委員・宮本委員・文化庁西岡調査官・文化庁中井調査官
傍 聴 者	5人
担当課及び連絡先	文化財課(埋蔵文化財センター) 823-2714

### 協議経過及び協議結果

会議を開会し、次の議題について報告し、下記の結果となった。

#### 議題(1) 披雲閣(蘇鉄の間)耐震補強案

(事務局) 披雲閣耐震補強に当たり、蘇鉄の間の耐震補強案を作成した。今回は地盤調査を再度行った結果を踏まえて補強案を2案検討した。概要としては鉄骨フレームのA案と木製添え柱のB案である。いずれも従来の補強案よりは補強量が小さくて済み、文化財への影響が小規模になっている。また、耐震性能についてはA案の方がより高いものとなっている。今回の各補強案についてご意見をいただきたい。

(委員) A案については、基礎の埋設が可能かどうかの確認を優先すべき。当該地は史跡高松城跡であり、名勝披雲閣庭園である。いずれの本質的価値についても損なうことなく補強することが大前提であるが、地下遺構の深度等について、基礎的なデータを揃えてからでなければ、拙速にいずれの案が適当か判断は困難である。

(委員) 活用の計画と合わせた補強案の検討という視点が必要なのではないか。

(事務局) 今後、大書院・松の間・桐の間といった各部屋の耐震補強案を次年度以降作成する予定である。

(委員) 今回の補強案の方針は、今後他の部屋の耐震計画にも影響することであるため、十分に前提条件を整えて、再度検討してほしい。

(委員) 部屋の内装については追加の補強材がほとんど見られなくなり、部屋内の意匠的価値を阻害する要因が無くなったため、評価できる。部屋外部の支柱を中心に補強案を検討する方向性で進めてはいかがか。

(オブザーバー) 部屋の性質と利活用の状況から、安全確保水準とすべき点は動かない。具体案を検討する際に地下遺構等への影響は軽視できないことから、十分注意すること。

(オブザーバー) 地下遺構への影響、庭園景観への影響は、当然ながら最小化することを意識していただきたい。

#### **議題(2) 桜御門復元整備工事の進捗状況**

(事務局) 桜御門復元整備工事について、現在、契約事務中である。なお、階段については、現状変更の許可条件としてステンレス製階段でなく木製階段への変更を検討することという条件が付されたため、階段部分については再度設計を行う予定である。